

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®]認証申請書

2024年12月19日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 壱岐市磯焼け対策協議会

住所：長崎県壱岐市石田町石田西触1290番地

氏名： 篠原 一生



Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	長崎県実りの島壱岐イズミハンターいきいきプロジェクト

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	<p>本プロジェクトの対象となる藻場は、沓岐島南西（沓岐市郷ノ浦町）の沿岸部、島しょ部（大島、長島、原島、机島、平島）周辺に位置しており、以前は沓岐の磯根資源であるアワビ・サザエの餌となる藻場が形成されていた。近年の気候変動等の影響に伴う水温上昇により、植食性魚類（イスズミ等）の摂食活動が長期化及び活性化し、食害による磯焼けが拡大した。その結果、アワビ・サザエ等の生育不良や資源量の減少により、水産業に大きな影響を及ぼしている。平成25年と平成28年夏には30℃を超過高温が長期間観測され、これにより海藻が弱体化、その後の台風による大時化が原因で大量流失に繋がり、藻場の衰退・消失が急速に進んだ。このため、令和元年度、沓岐市では「磯根資源回復促進事業」を創設し、藻場の保全や機能の回復を図るため、漁業活動中に定置網に入網したイスズミを捕獲した漁業者に対して補助金を出し、積極的な漁獲を促している。更に、令和2年度、「沓岐市磯焼け対策推進計画」に基づき「沓岐市磯焼け対策協議会」を設立し、イスズミ駆除による藻場の保全や機能の回復に取り組んでいる。その他、沓岐市では、「離島漁業再生支援交付金事業」や「水産多面的機能発揮対策事業」において、沓岐島の他地区における気候変動対策としてイスズミ駆除や海藻の種子・種苗の確保等の取り組みも行っている。以上の取り組みにより、本プロジェクトの対象海域（郷ノ浦地区）では、藻場（ヨレモク等）の回復が確認されている。</p>
クレジット取得理由	<p>今後も藻場の保全と機能回復の活動を継続・拡大していくための資金の取得を目的とし、Jブルークレジットの認証を申請する。また、沓岐市は平成30年に「SDGs未来都市」に選定されており、持続可能な社会の実現に向けた取組の一環としても、本プロジェクトによるブルーカーボンの創出が期待されている。</p>
クレジット取得後の計画や見通し	<p>取得したクレジットは、沓岐島南西だけでなく沓岐市全域への気候変動対策（藻場造成・維持管理）の拡大と継続に活用する予定である。</p>
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>■磯根資源回復促進事業（令和元年度創設） ・令和5年度イスズミ捕獲数：961尾 ■イスズミハンター（専従捕獲員） ・令和5年度専従捕獲員数：66名 ・令和5年度活動人数（延べ）：1,676名 ・令和5年度活動時間：平均4時間/回 ・令和5年度イスズミ捕獲数：2,926尾 ※本プロジェクトの調査時に使用した船舶の情報は項目1に記載する。</p>
プロジェクト実施開始日	2019年4月～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻 【藻場】 ガラモ場 【構成種】 その他</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 20.62(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：本土2023 (St.1~3)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側（UAV空撮写真がない範囲）は、環境省藻場調査（令和元年～令和2年）の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 11.58 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査（坪刈り）結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査（坪刈り）を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目1</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.5 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11マメタワラ（京都府養老海域）を参照【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------------	--------------	---

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 61.209(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：20.62(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：2.96846×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (132kw / 180PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 18.00(h)</p> <p>【出力】 254.00(kw)</p> <p>【燃料の種類】 重油A</p> <p>【CO2排出量】 0.569(t-CO2)</p>

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 19.358625(t-CO2) (入力値21.45×面積の評価：95%×吸収係数の評価：95%) 【設定した根拠】 ベースラインは、磯焼対策実施前の藻場範囲におけるCO2吸収量とする 【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	35.314(t-CO2)

項目2	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ヨレモク</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 9.17(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：本土2023 (St.4)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側(UAV空撮写真がない範囲)は、環境省藻場調査(令和元年～令和2年)の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 18.36 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 プロジェクトでは、潜水目視調査(坪刈り)結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60℃で48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査(坪刈り)を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目2</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.53 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11ヨレモク（京都府舞鶴海域他、平均値）を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------------	--------------	---

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 44.021(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：9.17(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：4.80061×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 方法論1で計上</p> <p>【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	39.729(t-CO2)

項目3	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻 【藻場】 ガラモ場 【構成種】 ヨレモク</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 1.9(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：本土2023 (St.5)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側(UAV空撮写真がない範囲)は、環境省藻場調査(令和元年～令和2年)の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 15.96 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査(坪刈り)結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査(坪刈り)を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目3</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.53 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11ヨレモク（京都府舞鶴海域他、平均値）を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------------	--------------	---

項目3	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 7.928(t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>（面積：1.9(ha)×評価：95%）</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>（吸収係数：4.17308×評価：95%）</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目3	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 0(t-CO2) (入力値0) 【設定した根拠】 方法論1で計上 【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	7.155(t-CO2)

項目4	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ヨレモク</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 38.51(ha) 【面積の算定根拠】 【大島2023 (St.6,10.17)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側（UAV空撮写真がない範囲）は、環境省藻場調査（令和元年～令和2年）の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 10.77 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査（坪刈り）結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査（坪刈り）を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目4</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.53 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11ヨレモク（京都府舞鶴海域他、平均値）を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------------	--------------	---

項目4	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 108.445(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：38.51(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：2.81604×評価：95%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目4	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 19.4154825(t-CO2) (入力値21.513×面積の評価：95%×吸収係数の評価：95%) 【設定した根拠】 ベースラインは、磯焼対策実施前の藻場範囲におけるCO2吸収量とする 【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	78.456(t-CO2)

項目5	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻 【藻場】 ガラモ場 【構成種】 ヨレモク</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 10.58(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：長島 (St.11)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側 (UAV空撮写真がない範囲) は、環境省藻場調査 (令和元年～令和2年) の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 15.76 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査 (坪刈り) 結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査 (坪刈り) を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目5</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.53 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11ヨレモク（京都府舞鶴海域他、平均値）を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------------	--------------	---

項目5	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 43.597(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：10.58(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：4.12078×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目5	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 3.32481(t-CO2)</p> <p>(入力値3.684×面積の評価：95%×吸収係数の評価：95%)</p> <p>【設定した根拠】 ベースラインは、磯焼対策実施前の藻場範囲におけるCO2吸収量とする</p> <p>【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	36.022(t-CO2)

項目6	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻 【藻場】 ガラモ場 【構成種】 ヨレモク</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 2.47 (ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：長島2023 (St.12)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側(UAV空撮写真がない範囲)は、環境省藻場調査(令和元年～令和2年)の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 22.92 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査(坪刈り)結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査(坪刈り)を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目6</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.53 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11ヨレモク（京都府舞鶴海域他、平均値）を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------------	--------------	---

項目6	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 14.802(t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>（面積：2.47(ha)×評価：95%）</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>（吸収係数：5.99291×評価：95%）</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目6	③ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 方法論5で計上</p> <p>【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	13.359(t-CO2)

項目7	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻 【藻場】 ガラモ場 【構成種】 ヨレモク</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 36.38(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：原島 (St.13,14)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側(UAV空撮写真がない範囲)は、環境省藻場調査(令和元年～令和2年)の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 11.36 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査(坪刈り)結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査(坪刈り)を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目7</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.53 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11ヨレモク（京都府舞鶴海域他、平均値））を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------------	--------------	--

項目7	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 108.059(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：36.38(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：2.97031×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目7	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 20.546315(t-CO2) (入力値22.766×面積の評価：95%×吸収係数の評価：95%) 【設定した根拠】 ベースラインは、磯焼対策実施前の藻場範囲におけるCO2吸収量とする 【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	76.977(t-CO2)

項目8	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】ヨレモク</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 10.57(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：机島2023 (St.15,16)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側 (UAV空撮写真がない範囲) は、環境省藻場調査 (令和元年～令和2年) の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 23.54 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査 (坪刈り) 結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査 (坪刈り) を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目8</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.53 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11ヨレモク（京都府舞鶴海域他、平均値）を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------------	--------------	---

項目8	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 65.058(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：10.57(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：6.15502×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目8	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 22.1969875(t-CO2)</p> <p>(入力値24.595×面積の評価：95%×吸収係数の評価：95%)</p> <p>【設定した根拠】 ベースラインは、磯焼対策実施前の藻場範囲におけるCO2吸収量とする</p> <p>【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	36.518(t-CO2)

項目9	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻 【藻場】 ガラモ場 【構成種】 アカモク</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 24.64(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：平島2023 (St.7～9)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側（UAV空撮写真がない範囲）は、環境省藻場調査（令和元年～令和2年）の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 18.66 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査（坪刈り）結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60℃で48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査（坪刈り）を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目9</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.53 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11ヨレモク（京都府舞鶴海域他、平均値）を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen & Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------------	--------------	---

項目9	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 120.219(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>(面積：24.64(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：4.87905×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目9	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 10.6124975(t-CO2) (入力値11.759×面積の評価：95%×吸収係数の評価：95%) 【設定した根拠】 ベースラインは、焼却対策実施前の焼却場範囲におけるCO2吸収量とする 【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	97.885(t-CO2)

項目10	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ガラモ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	【面積】 23(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：本土2024 (St.18)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。GISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側(UAV空撮写真がない範囲)は、環境省藻場調査(令和元年～令和2年)の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの湿重量】 12.72 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査(坪刈り)結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf 【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査(坪刈り)を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf

項目10	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.5 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11マメタワラ（京都府養老海域）を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

項目10	⑤吸収量算定方法	【計算に利用した式】 式2 【算定結果（吸収量）】 74.996(t-CO2)
	⑥确实性の評価	【対象生態系面積等の評価】 95% (面積：23(ha)×評価：95%) 【吸収係数の評価】 95% (吸収係数：3.2607×評価：95%)
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目10	③ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 4.5892125(t-CO2) (入力値5.085×面積の評価：95%×吸収係数の評価：95%) 【設定した根拠】 ベースラインは、磯焼対策実施前の藻場範囲におけるCO2吸収量とする 【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf
	④クレジット認証対象の 吸収量	63.094(t-CO2)

項目11	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻 【藻場】 ガラモ場 【構成種】 その他</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 89.86(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：本土2024 (St.19,20)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側（UAV空撮写真がない範囲）は、環境省藻場調査（令和元年～令和2年）の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 12.6 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査（坪刈り）結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査（坪刈り）を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

項目11	④吸収係数	<p>【P/B比】 1.1 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11キレバモク（長崎県見崎海域））を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
------	-------	---

項目11	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 212.844(t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>（面積：89.86(ha)×評価：95%）</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>（吸収係数：2.36862×評価：95%）</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目11	③ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 13.0131475(t-CO2) (入力値14.419×面積の評価：95%×吸収係数の評価：95%) 【設定した根拠】 ベースラインは、磯焼対策実施前の藻場範囲におけるCO2吸収量とする 【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf
	④クレジット認証対象の 吸収量	179.078(t-CO2)

項目12	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻 【藻場】 ガラモ場 【構成種】 その他</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】 46.78(ha) 【面積の算定根拠】 【地点名：本土2024 (St.21,22)】 Metashapeを用いてUAV空撮写真によるオルソ画像を作成した。QGISにオルソ画像を読み込み、目視で確認できる藻場の範囲にポリゴンを作成し、面積を算定した。オルソ画像よりも海側（UAV空撮写真がない範囲）は、環境省藻場調査（令和元年～令和2年）の藻場範囲のポリゴンで補完し、面積を算定した。 【面積の資料】 別紙1_藻場面積算定_20241122.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】 12.66 【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】 本プロジェクトでは、潜水目視調査（坪刈り）結果より乾燥重量を計測し、単位面積あたりの乾燥重量を式2に使用する。以下に単位面積あたりの乾燥重量算定根拠を示す。50cm×50cmの方形枠を設置し海藻を採取した。採取した試料は、陸上において種別に湿重量を計測した。湿重量を計測した後、60°Cで48時間乾燥させ、乾燥重量を計測した。 【単位面積あたりの湿重量に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【含水率】 0(%) 【含水率の算定根拠】 潜水目視調査（坪刈り）を実施し、乾燥重量を計測したため、含水率は0とする。 【含水率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>

<p>項目12</p>	<p>④吸収係数</p>	<p>【P/B比】 1.1 【P/B比の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.11キレバモク（長崎県見崎海域））を参照 【P/B比に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【炭素含有率】 32(%) 【炭素含有率の算定根拠】 文献値（「第3版磯焼け対策ガイドライン 令和3年3月」p.10ガラモ場）を参照 【炭素含有率に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【残存率2】 0.0499 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 別紙3_吸収量算定_20241122.pdf</p>
-------------	--------------	---

項目12	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 111.331(t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 95%</p> <p>（面積：46.78(ha)×評価：95%）</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>（吸収係数：2.3799×評価：95%）</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目12	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	【CO2吸収量】 4.0422975(t-CO2) (入力値4.479×面積の評価：95%×吸収係数の評価：95%) 【設定した根拠】 ベースラインは、磯焼対策実施前の藻場範囲におけるCO2吸収量とする 【資料】 別紙2_ベースラインの設定_20241122.pdf
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	96.434(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	760.0 t
------------------	---------